

8月26日（火）

ニッケイ新聞社、サンパウロ新聞社の取材

午前8時、ホテルの朝食会場にて、ニッケイ新聞社及びサンパウロ新聞社から訪れた記者2名からの取材に対応した。

冒頭、田中副市長並びに床田市会議長、吉川大阪・サンパウロ姉妹都市協会会長から取材に対するお礼を伝えたのち、国際担当より45周年記念事業について説明した。

また、床田市会議長から記者に対して20年前の代表団が訪問した際の新聞記事の写しを提供した。

主な質疑応答は以下のとおり。

- ・これから具体的にサンパウロ市に対して取り組んでいくことはどんなことか？

（田中副市長）

セミナーの前に環境局等にも立ち寄って話をしたが、公共交通機関を軸にしたまちづくりなど、大阪市の経験を伝えていくことができるのではないかと考えている。都市計画はもちろんであるが、環境分野ではすでに6年くらい取り組みを進めている。

（床田市会議長）

お互い会うたびにボールを渡しあえる関係を構築して、次にバトンを渡していけるよう両市の発展につなげていきたい。

市会代表団としてはこの20年間交流はなかったが、6年前、大阪市会の中から少数であるがサンパウロに派遣した経過もある。その中には今回も来ている北野議員もメンバーとして入っていた。また、大阪ジュニアバンドが訪れた際には同僚議員が同行していた。

行政レベルと議会レベルでは行う交流の中身が違うと考えている。

- ・ブラジルの印象は？

（土岐議員）

暑いが汗は大阪ほどでない。まちには活気があり将来性が感じられる。

（福田議員）

大阪は密集市街地であり、ある意味成熟したまちであるが、サンパウロは面積が広い。人口も1,150万人と多く、これから発展する可能性を大いに秘めていると感じた。個人的にはビルの上のほうまである落書きに驚いた。

（守島議員）

途上国もいくつか周ったこともあるが、途上国ほど貧富の差が路上でわかるわけでもなく、かといって先進国といえるほどでもない。インフラなどの状況を見てもちょうどその間の状態で苦悩しているのではないかと感じた。

（北山議員）

おおらかな人たちの集まりといった印象。市役所のセキュリティーの厳しさに驚いた。市民から少し遠く感じられたが、それが今のサンパウロの現状を示しているようにも感じた。改めて大阪市が世界の中でどの位置にあるのかを考えさせられた。

(北野議員)

6年前の移民100周年の際にも訪問させていただいたが、6年前と比べてもまち全体の活気を感じるが、やはり物価の高さが気になる。行きかう人々が生き生きしているといった印象を受けた。

(床田市会議長)

まち自体が発展したいと食欲に思っていると感じた。そして人が前向きで親切である印象を受けた。

- ・大阪市のこの分野をサンパウロに持ってきたらと考えていることは？

(田中副市長)

大阪にとって一番いいものがサンパウロにとって一番いいものとなるか。押し売りのようにならないようにヒートアイランド対策をはじめとした本市の取り組みの情報を伝えていきたい。サンパウロ市役所の職員はみんな若いのでさまざまなことを吸収してもらえと思う。

- ・現地の日系人に向けて大阪の良いところをPRしてほしいが？

(井上経済戦略局長)

大阪は海外からの観光客も多く、ビザの緩和などを行ったことによりアジアの方々が大阪をはじめ京都、奈良、和歌山などに多く訪れている。大阪の粉もんや文楽といった伝統芸能など、世界に発信して皆さんに案内していきたい。

2020年の東京オリンピックに向けて日本全体で盛り上げていきたいと考えている。

- ・日系人との交流は？

(田中副市長)

今回は、在伯大阪なにわ会とジェトロサンパウロ事務所になる。

- ・日系人はブラジル日本移民開拓先没者慰霊碑に参拝するのを結構気にするのだから行く予定はないのか？

(田中副市長)

貴重な情報感謝申し上げます。調整して時間が作ればぜひ伺いたいと思う。

サンパウロ市立オオサカシ小学校記念行事

午前11時30分、サンパウロ市立オオサカシ小学校講堂にて、教員・児童による記念

行事に出席した。



歓迎を受ける市代表团・市会代表团

同校は1967年に設立。大阪市とサンパウロ市の姉妹都市提携にちなんでオオサカシ小学校と名付けられた。児童数は約1,100名。昭和57年に大阪市立田辺小学校と姉妹校提携を結んでいる。

まず、日本、ブラジル両国の国歌斉唱が行われた。

続いて、ルチアナオオサカシ小学校校長から歓迎のあいさつを受けたのち、田

中副市長、床田市会議長、吉川大阪・サンパウロ姉妹都市協会会長からそれぞれあいさつを行った。

(田中副市長あいさつ要旨)

素晴らしい歓迎を受け大変感謝申し上げます。

先週、大阪ジュニアバンドが訪問した際にも温かい歓迎をしていただいたと聞いており重ねてお礼申し上げます。

本日は姉妹校である大阪市立田辺小学校のビデオレターを持参したので後ほどご覧いただきたい。また、大阪市の花であるパンジーを持参した。両市の45周年を象徴する花であると思う。

オオサカシ小学校と田辺小学校が文化・歴史の違いを認識し、国境を越えた交流を進めることを切に願う。

(床田市会議長あいさつ要旨)

私どもを温かく迎えていただき感謝申し上げます。

大阪・サンパウロ姉妹都市提携45周年という記念すべき年に訪問しこのような記念行事に参加できることを喜んでいる。

先週訪れた大阪ジュニアバンドは演奏準備に1年間費やし、その成果を皆さんと共有できたことは大変意義深く、サンパウロ、大阪両市の友好に寄与できたことをうれしく思う。

姉妹校である田辺小学校とは遠く離れているが、今回のビデオレターの交流などを通じて、今後も両校の活発な交流が続けられることを期待する。

本日は日本で今一番人気のある「妖怪ウォッチ」の単行本をプレゼントに持参したので、みんなで仲良く読んでほしい。

続いて、田中副市長、床田市会議長がルチアナ校長と記念品の交換を行い、オオサカシ小学校の出席者及び大阪市代表团並びに大阪市会代表団の紹介を行った。

大阪市会代表団の紹介の際、床田市会議長から北山議員が誕生日であることを伝え、大きな拍手とともに児童からハッピーバースデーの歌がプレゼントされた。

次に、田辺小学校から預かったビデオレター、大阪ジュニアバンドとの交流の模様を映した映像を鑑賞し、児童からお礼に歌が披露された。続いてパンジーの種を植えるセレモニーが行われ、その後学校内を見学した。

場所を隣接する教会に移し、そこで実際に児童が食べる給食をいただくこととなった。ムケッカという海鮮のカレーのような料理で、水を使わずブラジル原産のじゃがいもをつぶしてルーにする。肉は用いずに魚（今回はサメを使ったとのことであった）が入っているのが特徴である。

食べきれないほどたくさん提供していただき、いかに歓迎されているのかがわかる料理内容であった。



給食（ムケッカと野菜サラダ）

食事終了後、一旦ホテルに戻り、次の行程に向かうこととした。

ブラジル日本商工会議所訪問

午後4時過ぎ、少し遅れてブラジル日本商工会議所会議室にて、平田事務局長をはじめ大阪に縁のあるブラジル進出企業の方々と意見交換を行った。

まず、田中副市長並びに床田市会議長、吉川大阪・サンパウロ姉妹都市協会会長がそれぞれあいさつを行った。

（田中副市長あいさつ要旨）

3年前から大阪では、関経連、大阪商工会議所とで水・環境ソリューション機構を設立した。水道、下水道、ごみ処理の分野の事業全体のマネジメントや維持・管理のノウハウを持つ大阪市とそれぞれの団体が持つ技術を持ち寄って、海外進出を果たしていくこととしている。今はベトナムのホーチミンで活動しているが、そろ次のステップに行かなければと考えている。

ブラジルについてもそういう環境技術等が利用できるのであればどんどん活用していけるようにしたいと思う。

本日は、企業の皆さんから商慣習をはじめとしたさまざまな苦労話などを聞かせていただければと考えている。

(床田市会議長あいさつ要旨)

大阪・サンパウロ姉妹都市提携45周年の節目に訪問させていただき、本日、大変貴重な意見交換の場を設けていただいたことに感謝申し上げます。

今月初めに、安倍総理大臣がこちらを訪問し、中南米の重要性に関する発表をしていた。我々も5年前の姉妹都市提携40周年共同宣言にのっとり、お互いの得意分野を生かしていっしょに発展していきたいと考えている。

今回の訪問が、日伯、大阪・サンパウロの友好の礎となれればと考えている。

続いてブラジル日本商工会議所の活動内容について説明を聴取した。

2009年2月、当時の甘利経済産業大臣の発案もあり、日伯両国の貿易促進の観点から、商工会議所を含めた第1回日伯貿易投資促進合同委員会に参画することとなった。ブラジル日本商工会議所が一番のカウンターパートになるのが日本経団連である。日本経団連やブラジル政府を交え我々が常々抱えている諸問題について、これまで計6回会議を重ねてきた。

今般、新たに経済産業省の補助金の活用ということで、日本の補助金を使ってブラジルでのビジネスにつなげていく取り組みを進める。

しかしながら、ブラジルの商慣習は複雑でさまざまな課題があることから、先日、松島みどり副大臣が来られた際にトップダウンで税制制度の改正などをお願いしたところ前向きな回答を得られたものの、まだまだ具体の動きにはつながっていない。

商工会議所としてはまず、内部体制の強化を図るべく課税、通貨、労務、産業競争力、中小企業支援の5つのワーキンググループを立ち上げ、各省庁とひざを交えて半年に一度は話し合えるような組織になるよう取り組んでおり、現在変革の最中である。

続いて意見交換を行った。主なやり取りは以下のとおり。

・税制上の問題とは？

⇒(平田事務局長)とにかく日本の技術がほしいのだが、日本からの技術を持ってくる際に、ブラジル独特の技術移転・ロイヤリティー送金規制(※1)や移転価格税制(※2)が妨げになっている。

※1)日本の本社と現地法人とで技術移転契約を結ぶ際には国立工業所有権院に登録する必要があること、また、ロイヤリティー料率は売上高の5パーセントまでという上限規定があること、技術移転契約の期間は5年までとされており、5年後の技術の買い取りも認められていないことから、5年後以降は技術供与された会社がノウハウを自由に使えるようになってしまう。

※2)全世界で用いられているOECDの移転価格税制とは異なり、特に製品ごとに移転価格の分析が必要になることや、当該業種の関連者であるかどうか

関わらず同税制が適用される場合があるなど、ブラジルだけの対応が必要となってくる。

- ・ 各社の方にお聞きするが、労働規制分野で困ることはどのようなことか？

⇒ (クラシキ・ド・ブラジル・テキスタイル 上野社長) ブラジルの労働法は約70年前にイタリアの労働法を参考に作られた。現在もほとんど変わっておらず、企業は労働者を搾取するという企業性悪説に基づく法律となっている。よって、労働訴訟が多く、ほとんど企業が負ける。労働生産性が上がらなくても必ずベースアップは行わなければならない。インフレプラスアルファで労務コストは上昇していく。国際競争の昨今では、どの企業もインフレプラスアルファの製品を出し続けることはできない状況である。改善のためには人材育成を図る必要があり、根本の教育分野から手をつけていかなければいけないと考えている。

(パナソニック 村上社長) ブラジルは自国への保護貿易がすごいので、我々としては海外から具材を持ってきて、こちらで製品化して販売する形を採っている。仮に輸入するとすごい税金をかけられる。例えば日本で2万円のデジタルカメラを輸入するとこちらでは9万円くらいになる。我々としてはこちらで製品化する時の保護貿易でかけられる税制上の恩恵に乗りながら、ものづくりをしている。また、ブラジルで作った製品を輸出しようとする、逆に様々な税をかけられるといった問題もあるなど、輸出競争力がない状況である。

(ダイキン・マッケイ・エアコンディショニング 桑山副社長) 輸入だけでは成り立たない市場である。海外から進出する企業にとっては税制上も厳しいが、マナウスで工場を建てると結構な税制上の恩恵がある。また、国内の企業を守る観点から、部品の一定部分は現地で調達することを求める規制が突然できたりするなど、法律の改正が頻繁にあり、前の法律が残ったまま上書きされていくので解釈が難しい。経営上の様々な課題の解決については、今後もロビー活動など行っていく必要がある。

- ・ GDPに占める個人消費の割合はどうなっているのか？

⇒ (平田事務局長) ブラジルの中小零細企業の団体から聞くとGDPに占める個人消費の割合は7割と言っていたが、少し多く言いすぎていると感じている。日本で6割くらいと聞いているので、ブラジルでも現実では6割くらいではないかと考えており、先進国型の消費割合になっていると思う。

この後、記念撮影を行ったのち、次の行程に向かった。

大阪・サンパウロ姉妹都市協会主催姉妹都市提携45周年記念レセプション

午後7時30分、ビュッフェ・コロニアルにて開催された。

まず、吉川大阪・サンパウロ姉妹都市協会会長から主催者を代表してあいさつがあり、来賓の紹介及び来賓を代表して福嶋在サンパウロ日本国総領事からあいさつを行った。続いて、高木サンパウロ姉妹都市委員会会長の乾杯発声によりレセプションが催された。

当日は、サンパウロ市並びにサンパウロ市議会、さらには在伯日系企業の方々も出席されていた。

田中副市長並びに床田市会議長も壇上で一言あいさつを行った。また、サプライズで北山議員と福嶋総領事に誕生日ケーキが出されるなど、終始和やかな雰囲気であった。

